

# JDDW 2020 メディカルスタッフプログラム

## メディカルスタッフプログラム 1

「在宅医療における多職種連携の在り方」**指定**

11月6日（金）9：00-12：00 （第13会場）

司会：榎本 信幸（山梨大・1内科）

荒神 裕之（山梨大附属病院・医療の質・安全管理部）

橋本 廸生（日本医療機能評価機構）

### 【司会の言葉】

大学病院などでの医療事故を契機に、特定機能病院における医療安全管理体制が強化され、併行して医療事故調査制度が開始されるなど、医療安全管理のための体制整備や取り組みは日々強化されているといっても過言ではない。一方で、VUCA、すなわち Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の要素を持つリアルな臨床現場では、安全性の追求が必ずしも理想通りとはいかず、制度上の不備も重なって解消困難な問題を多く生じている。医療安全元年から20年の節目となる新たなスタート地点で、現実にある困難を直視しながら、消化器病学における医療安全の今後の方向性を示すことが、本セッションのねらいである。

## メディカルスタッフプログラム 2

「癌患者の就労継続に向けた取り組み」**公募・一部指定**

11月7日（土）14：00-17：00 （第13会場）

司会：東口 高志（藤田医大・外科・緩和医療学）

真田 弘美（東京大大学院・老年看護学/創傷看護学）

### 【司会の言葉】

わが国では近年の急激な高齢化とそれに伴う生活環境の変化が日に日に大きな問題となりつつある。2010年のわが国の死亡者数は約120万人であったが、2040年には170万人に膨れ上がる。これに対してわが国の病床数は減少の一途をたどっており、以前より170万-120万人＝「50万人の患者の命」が路頭に迷うことが危惧されている。しかも、男女の平均寿命は、2018年にはそれぞれ81.25歳、87.32歳と長寿大国ではあるが、男女の差は6.07年である。一方、健康寿命については平均寿命の伸び率に対し芳しくなく、平均寿命との差は、男女それぞれおよそ9年と12年とされている。この年月こそが医療に携わる年月であり、患者背景に大きく関与する部分でもある。しかも、このような社会情勢は地域によっても大きく異なり、医療・介護・福祉さらには生活支援へ大きな変革が求められている。本セッションでは、医療・介護・福祉・生活を患者の最も身近で支えるメディカルスタッフの皆さんにご参集いただき、この難局をどのような取り組みで乗り越えていくべきか是非とも活発にご討論いただきたい。